



マレーシアの夜

高橋 麗

マレーシアを離れ、無事に離陸した機内でふと目に映ったのは、上空からしか見ることの出来ない美しい夜景だった。私達は夏の5日間をこの場所で過ごし、日本では決して見ることも知ることも出来ない「世界」というものに出会ったのだ。

マレーシアの夜を照らす明かりを見ていると、現地の学校でたどたどしくも会話を重ね、意味が伝わったことに喜び、共に笑いあった大切な友人たちの笑顔が目浮かぶ。彼ら彼女らは皆、心に情熱と希望を抱いて私達に夢を語っていた。夢を叶えるために懸命に努力する彼らは、私にはひどく眩しく見えて仕方がなかった。将来の夢すら言葉に出来ず口ごもることを繰り返しているばかりだった私はしかし、今回のマレーシア研修で気づいたことがあった。

これからの未来を担う人々に必要なのは、援助という隔たりを越えて互いに手を取り合う勇気であり、挑戦しようとする思いだった。ひとつの明かりが集まり連なれば、世界を輝かせることが出来るように、私もそんな小さな明かりを持つ人間でありたい。ひとりひとりが持つ明かりで照らされた未来は、きっと今よりもっと良いものになるだろう。